「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◇◆◇　No.0307　◇◆◇　　14/12/03

【　12 月のドル/円、2 年連続で「年末高」 】

名実ともに 12 月入りし、今年も残り 1 ヵ月を切った。そうしたなか、今回の当レターでは恒例となった過去の経験則に基づいた月間相場見通しをレポートしてみたい。
過去の 12 月相場はやや「ドル高有利」な状況がうかがえ、実際、今年もドル/円は月替わり早々に年初来高値を更新している（3 日本稿執筆時に 119.42 円を記録）が、経験則からすると月末までドル高傾向が続く可能性を否定出来ないようだ。しかし、ポジション的にはかなりの偏りも散見されるだけに、今年のパターンに多い「米雇用統計発表前後をピークに反落」－－という展開にも注意を要する気がしないでもない。

◎一方向に動きやすいという傾向も＝個人的には調整に要注意だと思うが……

まずは、1990 年以降昨年まで過去 24 年間の 12 月相場を振り返り戦績を見てみると、勝率は 15 勝 9 敗となった。つまり、6 割強の確率でドル高・円安に振れている。

ちなみに、先のデータに示されるように 12 月相場は何故ドル高へと振れやすいのか、需給的には一応の説明が付けられなくはない。
ひとつは、周知のように一般的に米国企業は 12 月末を決算期末としている先が多く、それに向けて「日本支社など外国企業の子会社が本国への利益送金が活発化する」こと。また、12 月は多くでボーナス支給後に当たるため、個人投資家による外貨投資が通常月よりも盛り上がる傾向にあることも、ドルなど外貨高・円安を支援する一因になっていることは間違いない。

さて、そんな 12 相場は「ドル高に振れやすい」以外で、あと 2 つほどの「特徴」が見て取れる。
順を追って説明すると、ひとつは「値動きそのものはあまり大きくない」と言うことで、年間を通してもあまり動かず値幅の乏しい月になることが少なくない。たとえば、昨年 12 月は月間変動 3.79 円で、年間変動幅 10 位の小変動に終わっているほか、もっとも典型的な事例は 2011 年であり、月間を通したレンジはわずか 1.34 円、これは過去最小クラスの変動だった。海外の投機筋などがクリスマス休暇に入ることで積極的な取引を見送るうえ、月末に向けては本邦筋が年末・年始休暇を迎えるなど取引への参加者が著しく減退することと無関係ではないのだろう。

さらにもうひとつの特徴としては「一方向に偏った値動きを辿り易い」ということも意外に多いことが見て取れる。これはセオリーに沿ったドル高ではなく、セオリーとは逆にドル安方向へと動いても、おおむねそうした傾向がうかがえるようだ。
一例を挙げると、2012 年は月初オープンから 2 営業日後の 4 日に 81.72 円の月間ボトムを記録後は緩やかな右肩上がり、月末最終日にザラ場で 86.79 円の年初来のドル高値を更新。その後も高値圏をキープし、結局ドルは年間最高値圏のまま 2012 年を終了、越年している。また、昨 2013 年も経験則に近い値動きをたどり、2 年連続で「月初安・月末（年末）高」となったことは、記憶に新しい。

いずれにしても、前段までに指摘した 12 月相場の特徴をここでいま一度まとめると、「月間を通してドル高がやや有利。値動き自体はそれほど大きくないが、月初安（高）・月末高（安）を辿るケースが非常に多い」と言えそうだ。
－－こうした傾向を今年の相場に照らし合わせると、ムーディーズによる日本国債格下げを受けた調整的なドル安・円高もすでに一巡し、ドルは上昇トレンドに回帰しており、今後もじり高に推移。月末にかけては、再び年初来更新する－－がメインシナリオか。とは言え、筆者個人も基本的には強気の見方だが、短期的には行き過ぎ・ヤリ過ぎとの相場観を抱いているため、調子に乗って上値を積極的に買っていくことはリスクが存外高いように思っている。（了）

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆　Copyright　(C)　fx-newsletter limited　company All Rights Reserved　◆◇◆